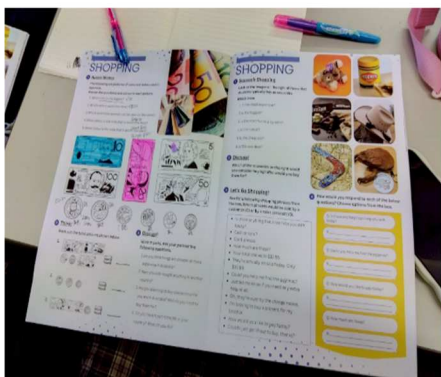
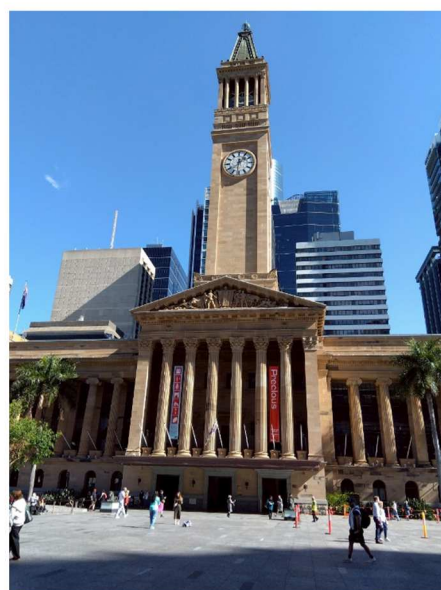
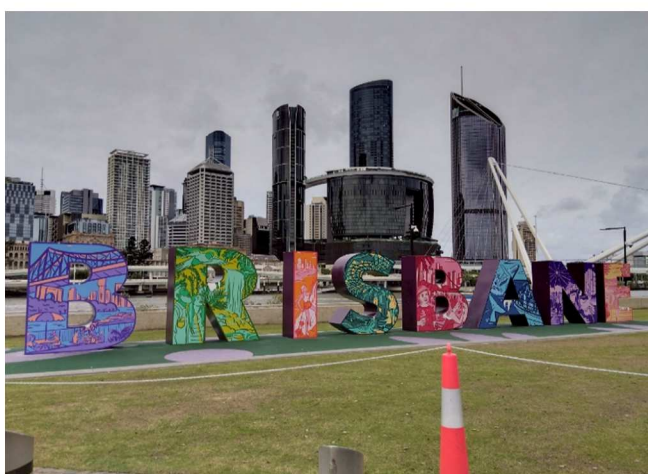


令和7年度

南幌町中学生国際留学プログラム事業

報告書



8/3-8/12 Brisbane, Australia

南幌町では、次代を担う中学生を海外に派遣し、外国での語学研修やホームステイ体験を通じ、国際性豊かな人材を育成することを目的に「南幌町中学生国際留学プログラム事業」をスタートしました。

海外派遣9回目となった本年度の派遣はオーストラリア、南幌中学校の生徒8名に決まりました。派遣期間は8月3日から12日までの10日間。派遣者は、オーストラリアの情報や、ホームステイの心得などの事前研修を全3回を受け、海外研修に備えました。

本書は、クイーンズランド州ブリスベンにおいて、現地のシャフストン・インターナショナル・カレッジでの語学研修、先住民であるアボリジニ文化のクラフト体験、実際に野生の動物と触れ合う体験、ホームステイによる生活など様々な体験をした生徒たちの報告書です。



目次

派遣生徒の報告書

・・・・・・・・・・

1

【報告者】

吉野維千花・金子椿・才崎結衣・青山桜

青柳毅・門別咲良・鈴木莉子・高橋由菜

地図

・・・・・・・・・・

17

行程表

・・・・・・・・・・

18

オーストラリアでのたくさんの経験

南幌中学校2年 吉野 維千花

今回、私は中学生国際プログラム事業に参加し、オーストラリアへ行き、たくさんの貴重な経験をすることができました。

まず、オーストラリアに着いて1日目は緊張と期待で胸がいっぱいでした。そんな気持ちの中で、語学学校、シャフストンに着き始めの歓迎オリエンテーションでようやく「オーストラリアに着いたんだ。」という実感がいってきました。オリエンテーションの次にはレベルテストを受けました。英語が苦手な

私にはとても難しく、全然理解できませんでした。なんとなくでテストを乗り越えました。

未だにテストは返ってきてはいないので、どうにかならないと嬉しいです。テストを受けた他にも皆でブーメランを作りました。たくさんの模様や絵を描いてできたブーメランはみんなでいっぱい飛ばしました。全然飛ばなかったのですが、すごく楽しかったです。ブーメランの後はついにお昼の時間。わくわくした気持ちでお昼を受け取り校庭で食べました。お肉は

すっごくおいしかったし、お米は海外独特の感じで少しおじけづきましたが、普通においしかったです。ご飯の後はみんな映画を見ました。英語の映画で言っていることはあまり理解できなかったのですが、絵や雰囲気などでなんとなくの内容は理解できましたし、キャラクターも魅力的ですごくおもしろかったです。映画を見終えた後は、この留学の醍醐味、ホームステイ先の人のお迎えが始まりました。すごく緊張しながら待っていると、あつという間にお迎えが来ました。「Hello」と優しく声をかけてくれるホストマザー



ーを見るとすぐに緊張はほぐれていきました。車に乗り家に着くと二匹の小さな犬とホストブラザーが出迎えてくれました。

その後すぐに家の中を案内してくれたのですが、造りが複雑で覚えるのには時間がかかりました。そうしていると、ホストシスターも帰ってきてみんなで夕食を食べました。運ばれてくる食事を前に全員がそろいのを待っている。「先に食べていいよ」と言われ、みんなそろってからご飯を食べないことにびっくりしました。夕食はあまり使い慣れていないフォークとナイフで食べました。マッシュポテトが一番おいしかったです。ご飯をのんびり食べていると、先に食べ終えたホストブラザーがぼうしやマフラー、サングラスなどを身につけ、ギターを弾き語ってくれました。すごく不思議な時間になりましたが、すごく面白かったです。

2日目からはホストファミリーに送迎してもらいました。車での会話は途切れ途切れですが少し話すことができてうれしかったです。この日はアクティビティでみんなで街へ出かけました。オーストラリアの歴史的な建物やカジノタワーを見ることができて楽しかったです。

3日目、学校では英語の勉強ばかりで疲れました。家に帰ってからはホストシスターとケーキを作りました。ホットケーキミックスと似ていて粉と牛乳と卵を入れて混ぜたものをオーブンで焼くというものでした。ときどき味見させてくれたのがすごく美味しかったです。できたケーキは夕食のあとに食べたのですが、それもちろんおいしかったです。

4日目は学校でたくさん動物と触れ合いました。目がくりの力エルや首の長いカメ、

丸っこいトカゲやシュツとしたトカゲやアルビノで白いヘビ、それとは真逆に頭の黒い大きなヘビなど、その他たくさん動物と触れ合いました。私はヘビを首に巻いたのですが、ヘビのひんやりとした体温が伝わってきて少し怖かったです。触れ合った動物の中で一番かわいいなと思ったのはオーストラリアやニュージーランドに生息する動物、ポッカムで、くりくりの目とふわふわの毛皮がたまらなく可愛かったです。帰ってこのことをホストファミリーに自慢すると「すごいね。カッコいいね。」と言ってくれました。

5日目は地元の学校へ訪れました。日本のサブカルチャー、暴走族について教えたのですが、自分の伝えたいことがなかなか伝わらず難しかったし、英語でたくさん質問されてすごく緊張しました。

6日目は驚きの日でした。朝起きるとホストファミリー達がドタバタしていて、どうしたのか聞くと子犬が3匹産まれたことを告げられました。小さな体が一生懸命に動く姿はすごく可愛かったです。そして、アクティビティではみんなでサーフアーズパラダイスとゴールドコーストに行きました。この日はくもりでせつかくのサーファーズパラダイスのきれいな海は見れなくて残念でしたが、友達と一緒に買ったオーストラリアのスタバ限定のぬいぐるみで残念な気持ちは吹っ飛びました。ゴールドコーストでは博物館に行きました。無料とは思えないほど豪華ですごく面白かったです。

そしてついに最終日の7日目。最終日はホストファミリーと過ごしました。お昼まではのんびりと家で過ごし、午後から

はお出かけをしました。そこで行ったスーパーマーケットではホストシスターおすすめのクッキーをプレゼントしてくれてすごうれしかったです。その日の夕食は初日と同じメニューで、7日前に初めて来た時のことを思い出して少しさびしく思いました。夕食後にみんなで食べたパプロバが一番の思い出です。

私はこのプログラムを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとすることの大切さや、日本との文化や価値観の違いについて学びました。察すことの多い日本の文化ですが、海外ではそんな事はないので自分の気持ちをしっかり伝えられるようになりました。他にも本当にたくさんさんの貴重な体験をして、たくさんさんのものを得られました。大人になったらもう一度オーストラリアへ行きたいです。

中学生オーストラリア

国際留学プログラム

南幌中学校1年 金子 椿

今回私が参加したオーストラリア国際留学プログラムでは、オーストラリアの動物保護がどのように行われていて、日本との違いは何なのかを知りたくて応募しました。

初日、まず新千歳空港から成田空港まで行くのは簡単でしたが、成田からブリスベン空港に行く際は、税関で保安検査員に日本で買ったお菓子を説明する必要があります、上手く伝えることができず苦戦しました。

二日目、早朝オーストラリアに到着。日本は夏ですが、オーストラリアは南半球なので冬でした。意外にも温かく、スーパーや商店街では、冷房やミストが出ている所もあり秋に近いものでした。その後、バスで一時間ほど移動し、このプログラムで通うことになるシャフストンインターナショナルカレッジに到着しました。まず、アート&クラフトアクティビティで、オーストラリアの先住民が使っ

ていたマークなどを使ってブーメランに絵を描きました。その後、英語レッスンを受講し、ホストファミリーが迎えに来てくれる時間になりました。事前情報には名前と住所だけだったので、ドキドキしていました。結局私のホストファミリーは最後に到着でしたが、とても明るく面白い方でした。ホストファミリーの家に着き、少し休んだ後、夜ご飯が出来たと呼ばれました。私に合わせてくれたのか、醤油がついた目玉焼きと鮭でした。その後、疲れてしまったので、早めに就寝しました。

三日目、私は改めて日本とオーストラリアの学校の違いに驚く事になりました。この国の学校では、携帯持ち込み可能で、一つの学校で小学一年生から高校三年生まで教育を受けている所もあることがわかりました。

三時間ほどのレッスンと休憩の後、バスで一時間ほど移動し、クイーンズストリートモールに行き、二時間ほど自由時間を過ごしました。街を回っていると、英語以外にも中国語やフランス語、日本語も聞こえてきました。買い物の際は、オーストラリアドルの種類が多く苦戦しました。歩き疲れ、夜はすぐに眠りにつきました。

四日目、地元の学生との交流がなくなり、英語のレッスンが延長になりました。昼休みにゴシキセイガイインコという、胸元がオレンジ色でカラフルな色の鳥を見かけました。どうやらこの鳥は、オーストラリアやインドネシアに生息している鳥だとわかりました。

五日目、野生動物プレゼンテーションというオーストラリアの動物とのふれあい体験があり、最初にカエル、トカゲ、蛇

などの爬虫類系が出ました。そんな中凄かったのが蛇で、一匹目はアルビノで白く眼の赤い蛇で、もう一匹は大きくニメートルほどあったと思います。その蛇は茶色っぽく、首に巻く体験ができました。意外にも鱗が固く、少しヌメヌメしました。そして、遂に、本題のオーストラリアの動物保護について話し始めました。どうやらオーストラリアでは、

・約千八百五十匹の動物があり、さらに虫を含めると十四万以上になる。

・面白かったマツカサトカゲという尻尾が頭のような形をした動物は、その尻尾は頭から爬虫類を食べる鳥を混乱させるためとのこと。

・オーストラリアでは、爬虫類やモモンガを飼うときに、資格を取らないといけない。

・動物を保護するルールが州によって違う。私のいたクイーンズランドでは、動物を殺処分する施設は基本的に無く、飼い主のいない動物は、アニマルシェルトーで保護される。

・コアラは絶滅危惧種だが、オーストラリアでは約十萬頭以下のコアラが生息している。

・コアラの保護のために色々な所にコアラ基金という箱が設置されている。実際に私も空港だけで十箱以上は見かけた。

六日目、修了セレモニーがあり、現地の先生の話の後、証書のようなものを頂きました。

七日目、丸一日、ホストファミリーと過ごす日で、ホストファミリーに誘われ、ホストファミリーとその友達の家族と一緒にベトナムスパーに行きました。そこでは日本と違い、ドラゴンフルーツやスターフルー

ツ、ドリアンなど珍しい果実が沢山売ってありました。その後、昼食で人生初のフォーを食べました。食感や見た目はうどんに似ていましたが、フォーは麺の中に空洞がありました。

そして最終日、初日の成田空港より搭乗手続きは難しくありませんでした。そしてまた、9時間ほど飛行機に乗った後、東京のホテルに泊まって、みんなで一つの部屋に集まって「お疲れお菓子パーティー」をしました。

今回の旅を通じて、日本とオーストラリアの文化の違いやこの国に暮らす様々な国の人達の文化や食生活、そして違う価値観や文化の融合を体験する事が出来ました。また、親元を離れ生活した事で、自分は両親に助けて貰っている事がわかりました。

今後も色々な国を訪れ、様々な体験と経験を積み、将来はそれを活かした仕事に就きたいと思います。



短期留学を終えて

南幌中学校2年 才崎 結衣

私達は、八月三日から八月十二日までの約十日間、オーストラリアのブリスベンに短期留学をしました。到着するまでは、実感や緊張はありませんでした。でも、空港について空気が変わったことで、初めて実感がわき、途端に不安になりました。今回の短期留学は一家庭に一人でした。なので、その間は一人で頑張らなくてはいけないというのが一番の不安でした。その後はバスで語学学校に向かいました。学校につくと、みんな

なが優しく迎えてくれて、明るい雰囲気なのが少し安心しました。その日は学校やオーストラリア生活のルールについて説明を聞いた後、英語のテストを受けました。私は英語があまり得意ではないので、後半の方はもう全然わからず、時間がかかりました。その後はアートや映画鑑賞をしました。色々な活動をしていると、あっという間にホストファミリーと会う時間になりました。どんな人達なのか、上手く会話ができるのかなどすごく不安になりました。ですが

実際に会ってみると、すごく優しく不安がなくなってきました。

私のホストファミリーは、お母さん、お父さん、赤ちゃんの三人家族でした。特に趣味はないけど、すごく明るい家庭でした。一番驚いたのは、お母さんが日本出身で、家族みんなで毎年三月に日本へ旅行に行くということです。今年も三月に札幌へ行き、サッポロビール園や白い恋人の工業見学などに行っていたらしいです。日本に興味のある人達で日本の話題で盛り上がりました。

二日目の午前中は授業をしました。すべて英語で聞き取るのが難しく、すごく疲れました。午後のブリスベンの市内ツアーは、現地の学校の先生に市内を案内してもらいました。街を歩いているだけでも楽しいし、珍しい物や建物、アートがあり興

味深かったです。

三日目は予定が変わり六時間の勉強でした。ですが、ゲーム感覚で授業をしてくれたおかげで、楽しく授業ができました。そしてこの日は夜ご飯に赤かぶを使ったボルシチというロシアやウクライナの料理をお父さんが作ってくれました。初めて見る料理で、すごく興味がわきました。

四日目は、ヘビやカエルなど、主にハ虫類を中心に触れ合いました。私はハ虫類が苦手でしたが、最初は早く帰りたい一心でしたが、みんな大人しく触ることができました。触ってみると少し冷たく、湿り気がありました。そして、全体的に日本のより大きかったです。

五日目は、地元の学生と交流をしました。他の学校に行き、日本についての質問をされたと

きは、すごく速く知らない単語も沢山あって大変でした。オーストラリアの人達は、あまり遠慮とかがなく、接しやすかったです。遊びは、折り紙やけん玉などがあり、みんな日本の遊びを楽しんでくれていて、嬉しかったです。そして今日が最後の学校だったため、修了セレモニーがありました。先生方とお別れするのはすごく寂しかったです。

六日目は、ゴールドコーストに行きました。近くにビーチがあり、すごくきれいな場所でした。ここは、大きなショッピングモールもあったし、お土産ショップもたくさんあったので、ショッピングにはちょうど良かったです。

最終日はホストファミリーと一日を過ごしました。午前中は家でのんびりしていましたが、午後はまずレストランでステーキ

キを食べました。お店のインテリアなど日本とは全然違うけど、おしゃれでした。その後は買い物したら、EKKKAというお祭りに行きました。EKKKAとは、クイーンズランド州最大の農業イベントです。屋台一つ一つが大きくすごく明るかったです。それに、種類が多いので何を買うかすごく迷いました。すると、ファミリーがオレンジジュースとアイスを買ってきてくれました。アイスはもちで包まれていて、すごく美味しかったです。楽しい思い出が沢山作れたし、感謝も伝えることができて良かったです。

この留学で学んだことは、主に二つです。一つ目は無事に終わったのは、沢山の人々が支えてくれたからということ。優しく送り出してくれた保護者や英語を教えてくれた先生、サポートをしてくれた役場の方々、

現地の人達、そして、一緒に行った友達など、沢山の人達が私たちのことを思い、支えてくれたから、こんなに良い経験ができました。

二つ目は、挑戦し続けることです。最初は緊張もあり、YesやNoなど簡単な英語でしか答えられませんでした。それに、質問をされても、速くて聞き取りづらく、何度も聞き返したり、聞き取れた単語を文章にしたりなど、すごく時間がかかってしまいました。それでも会話を続けていくと、少しずつですがリスニング力が上がり、聞き取れるようになっていきました。間違いも多かったけど、色々な単語や文法を使えるようになって良かったです。

私は、留学に行って本当に良かったと思います。こんな貴重な経験ができて、サポートしてくれた皆さんには、本当に感謝

しています。



オーストラリア留学に挑戦して

南幌中学校2年 青山 桜

私は、オーストラリアに留学しました。

一日目、新千歳空港で、これからオーストラリアに行くという実感が全然わかず「本当に行くの？」と思ってしまいました。飛行機に乗って成田空港に到着しても、まだまだ実感がわかなかったです。その後、オーストラリアへの九時間のフライト。それまでは全部日本語だったのに、飛行機に乗った瞬間英語だらけで、急に緊張してきました。いつもなら寝ている時間

に機内食が出され、食欲がなさすぎてほとんど食べられませんでした。やっと思いで寝ることができました（一時間に一回起きたけど）。

二日目、起きた時間はオーストラリアで言う午前四時。ずっと座りっぱなしで腰が痛くなりました。ブリスベン空港に到着し、そこで現地に住んでいる日本人のスタッフさんと合流し、語学学校へ行きました。そこにはカフェテリアや広い庭がありました。生徒はそこでサッカー

や鬼ごっこなどをしていました。

私たち以外の日本人の留学生もいれば、他の国から来た留学生もいました。午後はレベルテストをした後、ブーメランを作りました。オーストラリアの模様を教えてもらい、それをブーメランに描き込みました。その模様には、オーストラリアで有名なカンガルーや亀という意味の模様や、月や星という意味のもの、男性、女性という意味のものなど、沢山ありました。

そして夕方、ドキドキのホストファミリーとの対面です。緊張で頭がおかしくなるかと思いつながら最初の挨拶を何度も頭の中で言ったり口に出したりしながら歩き回っていました。ホストファミリーが来る順番はバラバラでした。スタッフさんに名前を呼ばれていくと、そのスタッフさんに肩を組まれ、私のホストファミリーは毎回大人気

で、前回の子は帰りたくないと言いた、ということを聞かされました。その言葉に更にドキドキしながら対面しました。それまで考えていた挨拶は全部ストップ抜けて内心ものすごく焦りました。ホストマザーはとても優しく、聞き取れなくて何度も聞き返しても、私が理解するまで繰り返して言ってくれました。申し訳なかったのですが、とてもありがたかったです。

三日目、午前中にオーストラリアの州や気候について教えてもらいました（もちろん全部英語で）。午後にはブリスベンのクイーンズストリートモールへ行きました。一番驚いたことは、フェリーが公共交通機関になっていることでした。日本では車やバス、電車などで移動するところがほとんどですが、オーストラリアでは、川をフェリーで渡って駅から駅へ移動します。ク

イーンストリートモールでは、お土産屋で家族のお土産を買いました。レジの店員さんと、少し英語で話すことができました。

四日目、現地の学校へ行く予定でしたが、それは他の日となり、一日中勉強をしました（泣）。オーストラリアの動物やスポーツなど、色々なことを学びました。

五日目、色々な動物に触りました。カエルや亀、へビ（小さいサイズと黒い大きなサイズ）、ワニ（クロコダイル）など、他にも沢山の動物がいました。白い小さいサイズのへビは持つことができたが、黒い大きなサイズのへビを首に巻くことはできませんでした。巻いた人を尊敬します。

六日目、学校への車の中で、ラジオからカントリーロードが

流れました。その日は金曜日で、明日は休みだから金曜日にはこの曲をみんな聞くのだということをホストマザーに教えてもらいました。この日は現地の学校へ行きました。日本の学校は一つの校舎に沢山の生徒がいますが、オーストラリアでは、小さな校舎が沢山ありました。そこで、質問コーナーをした後に、日本の遊び（折り紙やけん玉など）を現地の生徒としました。

七日目、午後にゴールドコーストへ行きました。残念なことに天気が悪く、海はそこまで綺麗に見えませんでした。またいつかオーストラリアへ行った時のお楽しみにしておきます。午後には博物館へ行きました。カンガルーについてのコーナーもありました。夕飯にはカンガルーステーキを食べました。前の日に、カンガルーステーキを食

べたいと言ったらわざわざ買って作ってくれました。硬い牛肉のようで美味しかったです。

八日目、この日はホストファミリーと一日過ごすという日でした。カンガルーをまだ見れていないと言ったら、カンガルーを見に行かせてくれました。赤ちゃんのカンガルーもいて、とても可愛かったです。レストランでランチをした後、パットというゴルフのようなものを行いました（多分パークゴルフ）。意外に難しく、川にボールが落ちたり、手で投げたりとぐだぐだでしたが、とにかく楽しかったです。夕方にはお祭りへ行きました。屋台のほとんどが、日本のアニメのグッズを売っていました。夕飯はホストファミリーが作ってくれたオーストラリアンハンバーガーでした。とても大きかったです。日本のマックより美味しかったです。

九日目のホストファミリーとお別れの時は、もう会えないのだと思うとても悲しかったです。

今回の留学で、私はリスニング力がとてもついたと思います。リスニング力はとても大切なので、もっと伸ばしていきたいです。さらに、挑戦することの大切さを学びました。失敗を恐れて挑戦しなかったら、きっと私はオーストラリアに留学していなかったと思います。ですが、勇気を出して留学という大きな挑戦をしたことによって、沢山の経験を積むことができました。なので、これから沢山の事に怖がらずに挑戦していこうと思います。



オーストラリア語学研修に参加して

南幌中学校3年 青柳 毅



私は南幌町中学生国際留学プログラムでオーストラリアのブリスベンに、約十日間の語学研修に参加しました。留学というものは、八歳年上の兄がカナダに留学していたことから以前か

言っている内容がある程度理解し、積極的にコミュニケーションを取ることが出来ました。

到着後はまず、タスマニアクラスでオリエンテーションと実カテストが行われました。オリエンテーションでは、オーストラリアについて紹介があり、日本との違いを知る良い機会になりました。実カテストは難しく感じましたが、最後まで解ききることができ、自分の英語学習の成果を実感することができました。夕方にはホストファミリーと対面しました。初めはとても緊張しましたが、これまでの勉強が活かされ、会話の内容は大体理解できました。夕食ではタコスと一緒に食べ、好みの食材を選んで楽しめたことも安心につながりました。また、家にはラブラドル・レトリバーがいて、人懐っこい様子に心が和み、動物が苦手な自分でも自然

に触れ合うことができました。

次の日には、オーストラリアのお金の種類や地域について学びました。日本のお金と違い、紙幣や硬貨にカラフルなデザインや独特の工夫があることがとても面白く感じられました。その後はブリスベン市内のツアーに参加し、初めてフェリーに乗って川を渡りました。風も浴びながら街を眺める経験は新鮮で、ブリスベンの景観の美しさを感じました。さらに観光名所を巡り、中でもセント・ステイブン大聖堂のステンドグラスや日本では見られない建築様式には強い印象を受けました。学校に戻った後は、他の日本人留学生たちとバレーボールをして交流でき、留学を通じて新しい仲間ができたことを嬉しく思いました。

三日目と四日目は、授業を中心に過ごしました。特にクロス

ワードを使った学習方法は新鮮で、楽しみながら語彙を増やすことができました。また、午後には動物と触れ合う機会があり、大きな蛇を首に巻いたり、モモンガに触れたりと今までにしたことのない経験をしました。最初は恐る恐るでしたが、実際に触れてみると怖さよりも興味が勝り、自分の殻を破るような体験になりました。

五日目には、現地の日本語クラスに参加しました。オーストラリアの高校生たちが日本語を学んでいる様子を実際に見て、自分が普段学んでいる英語とは逆に立場で考えることができました。日本語を学ぶ生徒たちとの交流を通じて、言語を学ぶ難しさや楽しさは共通するのだと感じました。文化や言語の壁を超えて理解し合うことの大切さを強く実感しました。

六日目は、オーストラリアの

有名な観光地であるゴールドコーストを訪れました。美しい青い海と広い砂浜を目の前にして、自然の雄大さを体いっぱいと感じることができました。その後訪れた博物館では、恐竜の化石や宝石、オーストラリア独自の歴史に触れ、知識を広げることができました。単なるアクティビティではなく、学びの要素が多く含まれた一日となりました。

七日目は休日だったため、一日中ホストファミリーと過ごしました。昼食では、韓国からの留学生と一緒に日本食を食べました。夕食の際には、日本から持参したお土産をホストファミリーに渡すと、とても喜んでくれました。自分の文化を紹介し、それを受け入れてもらえる喜びを感じると同時に、国際交流の意味を改めて考える機会になりました。

最終日には、お世話になった先生方やホストファミリーと別れを告げ、日本へ帰国しました。短いようで充実した約十日間は、本当にあっという間に過ぎました。初めての経験ばかりで、慣れないことや困ることもありましたが、それ以上に学びや喜びが多く、留学をして良かったと心から思いました。

振り返れば、留学に行く前は不安が大きく、参加するかどうか悩んでいました。しかし、実際に現地で生活し学んだことで、日本では得られない貴重な体験を数多くすることができました。この経験は自分の人生にとって大きな財産となり、これからの学びや進路にも必ず生かされると感じています。また、もし将来、留学を迷っている人がいたら、今回の経験を伝え、

挑戦することの大切さを勧めたいと思います。

最後にこの留学に関わってくださった先生方や現地のスタッフの方々、そして温かく迎えて下さったホストファミリーに心から感謝申し上げます。皆さんの支えがあったからこそ、不安を乗り越えて充実した時間を過ごすことができました。この経験を忘れず、今後も努力を重ねていきたいと思います。



オーストラリアで学んだこと

南幌中学校2年 門別 咲良

私はこのプログラムに参加し、貴重な経験をたくさんすることができました。出発前は楽しみな気持ちもありましたが、ちゃんと生活できるか不安でもありました。しかし、一日一日、少しずつでも慣れてきて、学びもたくさんありました。オーストラリアで過ごした七日間を一日ずつ振り返ります。

一日目。朝早くにオーストラリアに到着し、すぐ学校に行きました。学校では、オリエンテーションを受けました。すべて

英語だったので、正直理解できない部分もありました。でも、英語で生活することを実感しました。その後、ホストファミリーと初めて対面しました。すぐ理解できなかったり、何て表現するのかわからなくて、難しかったです。ご飯はすごくおいしかったです。量がとても多かったですが、まだかなり緊張していました。ホストファミリーも話しかけてくれて、楽しく過ごせました。

二日目。午前中は学校で英語

の授業を受けました。教科書もあったので、ほとんど理解できました。ランチの後はショッピングと観光をしました。学校から歩いてすぐのところに川があって、船に乗って移動しました。ブリスベンでは船で移動するのが普通だと言われて驚きました。ブリスベンを見渡せる展望台に行きました。床がスケルトンになっていて、すごくきれいでした。

三日目。この日も学校に行き、英語の授業をしました。英語、英語の授業をしました。英語を探すゲームをチーム戦でしたのが楽しかったです。アクティビティがなかったので、イス取りゲームをしたり、色々遊びました。夜は、ホストファミリーと一緒にミートパイを作りました。私は中身を包むだけでしたが、それでも最初説明された時は理解するのが難しかったです。オーストラリアの伝統的

な料理もできて、良い経験になりました。パイのことをケーキと呼んでいたのが驚きました。

四日目。この日は、朝食に昨日作ったミートパイができました。とてもおいしかったです。オーストラリアの伝統的な料理を食べられて嬉しかったです。この日は、アクティビティで、動物と触れ合いました。カエルやカメ以外にも、日本ではあまり見ないようなガマガチヨタカという鳥も見せてもらいました。一番印象に残っているのは、ヘビを首に巻いたことです。私はヘビが好きで、巻いてみたいと思っていたので、首に



巻けて嬉しかったです。他にも、ひびに小さいワニをのせて座ったことも印象に残っています。意外とやわらかくてかわいかったです。

五日目。現地の学校訪問に行ってきました。最初は、日本語を学んでいる高校生ぐらいの人達のクラスに行きました。日本人一人、その生徒一人でペアになって、日本語でのレポート作りを手伝いました。私が教えるテーマがギャルだったので、とても難しかったです。海外で日本語を聞けて嬉しかったです。次はアジアの文化を学んでいる小学校高学年ぐらいのクラスに行きました。三人の子から、家はどんな感じかとか、身近に見れる動物とか、色々な質問をされました。留学中、一番難しかったです。質問に答えると、オーストラリアはどうか教えてくれたりして、私も違いを

学べました。最後にその三人としおり作りをしました。英語の名前をカタカナにして、日本語の名前入りのしおりを作れました。コミュニケーションを英語でとるのが大変だったので、改めてジェスチャーの大切さを感じました。学校に戻ってきたら、卒業式をしました。そこで、オーストラリアのお菓子のタイムタムと、ラミントンと、ビスケットを食べました。全部おいしかったです。ラミントンは行く前に先生にすすめられてたので食べられて良かったです。

六日目。この日はゴールドコーストでショッピングを楽しみました。コンビニで会計の後に「良い一日を過ごしてください。」と言ってくれた店員さんがいて、嬉しかったです。お店が多くて、目的のお店を探すのがとても大変でした。店員さん

との会計でのやりとりで、英語力がついたことを実感できて嬉しかったです。

七日目。この日はホストファミリーと過ごす日でした。私は、ホストシスターとその友達の子と一緒にショッピングに行きました。学んだ英語を使う良い機会になりました。おすすめのお土産を教えてもらったり、かくれんぼをして遊んだりもしました。夜は友達の子も一緒に食べました。「またオーストラリア来てね」と言ってくれて嬉しかったです。人とのつながりの大切さも改めて感じました。

今回は、英語力だけでなく、文化や挑戦すること、人とのつながりの大切さを学ぶことができました。間違えても話すことが特に大事だと思いました。それを意識したら、コミュニケーションがとりやすかったです。



今回の留学は私にとって一生の思い出になりました。これからはこの経験を活かし、もっと国際交流したいです。

中学生国際プログラムに参加して

南幌中学校2年 鈴木 莉子

私はこの夏休みに、オーストラリアでホームステイをしました。出発前は楽しい気持ちと同時に、不安で胸がいっぱいでした。英語をうまく話せるか、自分の気持ちを伝えられるか、初めての海外でホームシックにならないか。日本語が通じない環境での一人でのホームステイ。色々な心配が頭に浮かび、飛行機に乗る前からドキドキしていました。しかし、ドキドキする気持ちは、オーストラリアに向かう飛行機の中で、いつの

間にかワクワクする気持ちに変わっていました。

現地に到着し、学校に向かうバスの中から見えた景色は目に映るもの全てが新鮮でした。高い建物が立ち並び、ガラスが光を反射して未来に來たみたいに感じました。新しいビルとビルの間に芝生の休憩所があったり、都会なのに木が多く、自然と都会が一つになった景色は日本にはあまり見られないものでした。

現地では学校にも通いまし



た。お金の勉強やブーメランを作ったり、レベルテストをしました。レベルテストがとても難しく、知らない単語ばかりで少し不安になりました。先生との授業はすべて英語で行われ、説明は全く聞き取れないけれど、右下に書くなど指示している内容は何となく理解できました。思い出に残っていることは、現地の学校に行った時、小学生くらいの子ども達に折り紙を教えたことです。日本語での説明も難しいのに、英語だと更に難し

く友達と協力しながら手裏剣を教えました。言葉が通じなくても身振り手振りで一生懸命伝え、無事に完成することができました。忍者を知っていて、とても喜んでくれてすごく嬉しかったです。

野生動物プレゼンテーションでは、珍しい動物にも触れ合うことができました。ヘビやモモンガ、クロコダイルなど、日本では触る機会が少ない珍しい生き物に少し怖かったけれど勇気を出して触ってみました。一番印象に残っているのは、オーストラリアガマガチヨタカです。口がま口みたいに大きく、毛がとてもふわふわしていてかわいらしい鳥でした。現地でしか触れ合うことのできない珍しい動物の触れ合うことができ、貴重な経験になりました。

一番ドキドキしていたホームステイでは、私のホストファミ

リーはアジア出身のため、英語と中国語を話すことができました。最初は、オーストラリアなのに中国語も？と驚きましたが、世界には色々な国から来て暮らしている人々が沢山いることを感じました。とても親切で私がわからないことがあると、ゆっくりと説明してくれました。食事とは日本とは違い、パンや肉料理が多かったです。毎日いろいろなフルーツを出してくれて、ドラゴンフルーツやオレンジがとてもおいしくて驚きました。ホストマザーとの会話は、単語は少しわかるのに伝えたいことを英語で言うことができませんでした。長く会話を続けたいけれど、英語が出てこないで、「イエス」としか答えられず、もどかしい思いをしました。でも、どんな時も笑顔で接してくれるので安心して生活する事ができました。

ある日、ホストマザーのお友達の家に行きました。家の中には笑い声や英語、中国語が飛び交い、二つの言葉を自由に使えることはすごいことだと思いました。ホストマザーは教会で賛美歌の伴奏をしており、私も練習に連れて行ってくれました。ピアノに合わせて歌う姿は、とても美しく感動しました。その時の歌を録音したものを今でも聞くと、ホストマザーの優しさや、教会の雰囲気を感じ出し、また会いたいという気持ちになります。

十日間のホームステイはあっという間に過ぎましたが、私にとって大きな学びと感動の連続でした。英語で上手く話せなかった悔しさも、ホストマザーのピアノや、動物との触れ合いも、街並みの美しさも、全てが貴重な体験です。言葉や国が違って、人と人は心で繋がれる

ことを知りました。そして、英語を学ぶことでたくさんの人と出会えるということを実感しました。

これから、英語だけでなく中国語や他の国の言葉にも挑戦し、色々な国の人と出会いたいです。オーストラリアでの十日間はこれらかも知れない一生の宝物です。いつかまた、オーストラリアに行き、ホストマザーと再会したいです。



海外留学に行った感想

南幌中学校2年 高橋 由菜

私がオーストラリア留学に応募した理由は、異文化に元々興味があったので、自分で現地に行って体験したかったのと、実際に自分で英語を使って話してみたかったからです。面接に合格して、英語レッスンや説明会を受けている時はすごくワクワクしていました。でも、いざ当日となると一気に緊張してすごく不安で、飛行機の中でも全然眠れませんでした。オーストラリアの空港に着いて一番最初にびっくりしたのは服装でした。

日本の八月はとても暑い夏ですが、オーストラリアは冬に当たるのでとても寒いのですが、大体の人が日本の冬より薄着で、中には半袖で半ズボンの人もいてびっくりしました。

まず一日目に、私たちは語学学校に行きました。午前中はホストファミリーの家でのルールや、学校のルールの説明でした。午前中の授業が終わるとランチタイムがありました。今回私たちは、学校が用意してくれただご飯を食べましたが、学校に

キッチンカーが来ているので、そこに買いに行ってお腹を満たすこともあったそうです。そしてランチですが、サラダと甘じょっぱい牛肉ご飯の上にのっているものでした。日本にもあるような味付けで美味しかったのですが、お米が日本と違って細くて長い感じのお米でした。少しパサつきがありましたが美味しかったです。午後はオーストラリアのお土産としても買われるブーメランに絵を描きました。複雑な形をしているので、模様をつけるのが少し難しかったけど楽しかったです。その後、英語で映画鑑賞をしました。英語を聞いて理解するのに必死でしたが面白かったです。映画が終わって、ついにホストファミリーに会いました。すごくドキドキだったけど、優しい人で少し安心しました。家に着くとまずは部屋紹介をしてくれました。慣れない英語で質問を

すると優しく答えてくれました。お風呂の時間になった時、バススタブは無く、シャワーしかなくてびっくりしましたが、海外ではそういう家庭も多いそうです。

二日目は午後からブリスベンの市内ツアーと、クイーンズストリートモール見学をしました。お土産屋さんやショッピングモール、コンビニ、カフェなどたくさんのお店や色んな店舗がありました。お店の並び方は原宿みたいですが、もっともっと大きくてとにかく驚きでした。見たことないお菓子やたくさんのお土産があって、見るだけでワクワクしました。行き帰りの移動がフェリーで驚いたのですが、ブリスベンは川が多いので、よくフェリーを移動手段として使う人が多いそうです。

三日目はひたすら英語の授業をし、四日目はオーストラリア



の野生動物について学びました。実際にヘビやトカゲ、ワニ、モモンガなどを触りました。ヘビは首に巻いたり、ワニをひざの上に乗ったりもしました。日本ではあまりできない貴重な体験なので、たくさん触ったり、写真を撮ったりすごく楽しかったです。

五日目は、修了セレモニーをしました。終わりに近づいているのを感じて、すごく寂しく感じただけ、ここで学べて良かったなと思いました。修了セレモニーの後、ルービックキューブ教室のようなものがありました。

た。そこで少しだけ語学学校の生徒さんと日本のアニメの話をしました。中国の生徒さんだったのですが、中国では日本のアニメの中でも呪術廻戦が人気なことなどを教えてくれました。この日の午前中、現地の学校の人との交流がありました。グループワークのようなもので、課題は日本のサブカルチャーについてだったので、平成ギャルや、暴走族のことをジェスチャーまじりだけ教えることができました。今回の留学に応募した理由の一つでもある、自分で英語を使って話してみることのできて良かったし、英語を使えてすごく嬉しかったです。

私がこの留学で学んだことは、異文化だけではありません。この留学で学んだことの大きな一つは、失敗をおそれずにやってみるということです。留

学一日目、二日目は間違えることが怖くてあまり話せませんでした。でも日本人のスタッフさんが「人間なんて間違えることはあるし、間違えて失敗して学んでいくんだよ。間違えても良いからやってみな。何もせずに終わっちゃうのはもったいないから。」と言ってくれたんです。

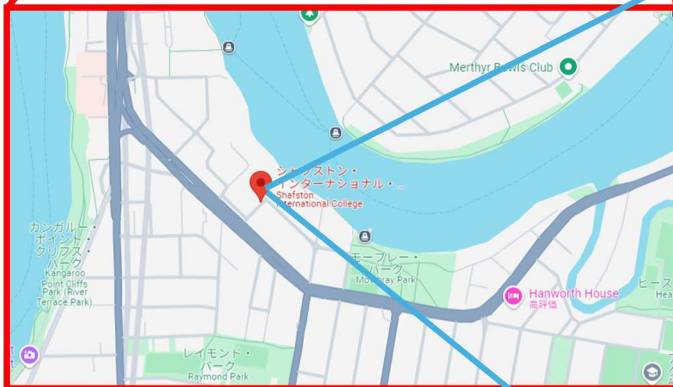
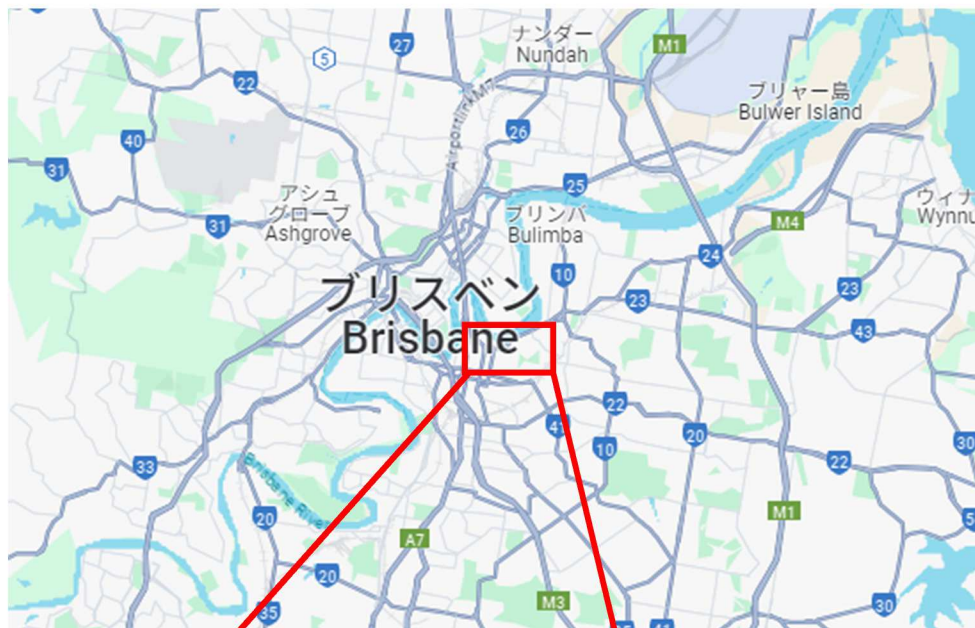
なので私は、その日から積極的にホストファミリーに話しかけたり、現地の人との交流の時にできるだけたくさん話をするようにしました。短期間だったのですが、英語力が上がったとかではないけれど、後悔のない、とても充実した十日間になりました。なのでこの話をしてくれた日本人スタッフさんにごく感謝しています。

最初はすごく不安だった留学ですが、今は本当に楽しかったです。行って良かったと思っています。この経験と留学で学んだ

ことを大切に、これからも英語の勉強を頑張ったり、自分がやってみたいことにたくさんチャレンジできるように頑張りたいなと思いました。



地図



行程表（2025 年）

日次		都 市 名	現地時間	交通機関	ス ケ ジ ュ ー ル	食事
①	8月3日 (日)	新千歳空港発 成田空港着 成田空港発	15:35 17:10 20:50	GK112 JQ010	新千歳空港から成田空港へ (フライト時間：1時間35分) 出国手続きをして、成田空港からブリスベン空港へ (フライト時間8時間55分) 《機内泊》	朝：－ 昼：－ 夕：機
②	8月4日 (月)	ブリスベン空港着	6:45 16:00	専用車	ブリスベン空港到着後、入国手続き 荷物受け取り後、学校へ移動 ウェルカムオリエンテーション レベルテスト・キャンパスツアー アート＆クラフトアクティビティ&映画クラス 夕方ホストファミリーと対面し、各家庭へ 《ホームステイ》	朝：機 昼：○ 夕：○
③	8月5日 (火)	ブリスベン	終日	送迎	英語レッスン（3時間） ブリスベン市内ツアー・クイーンズストリートモール見学 《ホームステイ》	朝：○ 昼：○ 夕：○
④	8月6日 (水)	ブリスベン	午前 午後	送迎	英語レッスン（1.5時間） 半日地元の学生と交流 《ホームステイ》	朝：○ 昼：○ 夕：○
⑤	8月7日 (木)	ブリスベン	午前 午後	送迎	英語レッスン（3時間） オーストラリアの野生動物プレゼンテーション、映画クラス 《ホームステイ》	朝：○ 昼：○ 夕：○
⑥	8月8日 (金)	ブリスベン	午前 午後	送迎	英語レッスン(3時間) 修了セレモニー準備と修了セレモニー 《ホームステイ》	朝：○ 昼：○ 夕：○
⑦	8月9日 (土)	ブリスベン ゴールドコースト	終日	送迎	ゴールドコースト観光 (サーファーズパラダイスなどを観光) 《ホームステイ》	朝：○ 昼：○ 夕：○
⑧	8月10日 (日)	ブリスベン	終日		ホストファミリーと過ごす 《ホームステイ》	朝：○ 昼：○ 夕：○
⑨	8月11日 (月)	ブリスベン ブリスベン空港発 成田空港着	6:00頃 9:30 17:40	送迎 JQ009	ホームステイチェックアウト、ミートポイント集合、空港へ ブリスベン空港から成田空港へ (フライト時間：9時間10分) 《成田東武ホテルエアポート 泊》	朝：○ 昼：機 夕：－
⑩	8月12日 (火)	成田 成田空港発 新千歳空港着	8:30頃 10:50 12:35	GK127	ホテルから成田空港まで無料シャトルバスで移動 成田空港から新千歳空港へ (フライト時間：1時間45分)	朝：○ 昼：－ 夕：－

現地の様子（写真）





育てる喜び、育む **幸**せ。 令和7年9月発行

南幌町

TOWN NANPORO

編集・発行 南幌町教育委員会 TEL:011-378-6620

〒069-0237 北海道空知郡南幌町栄町3丁目3番1号

中学生国際留学プログラム事業には南幌町を応援されている皆さんの寄附金が活用されています。